

平成26年度 事務事業マネジメントシート

事業名	子どもたちの米づくり体験モデル事業			会計	款	項目	大	小
				01	10	01	04	02
02	59							
政策	03	3節	学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）	主管課	指導課			
施策	3-2	個性を生かす教育環境の基盤充実		主管課長	濱崎 祐子			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内5小学校の5年生	意図	「米づくり」を通して、子どもたちが生産者の工夫や苦心、喜びなどを知り、流山の農業にも関心が持てるようにすると共に、食べ物を大切にすることを育てる。
事業内容	・市内5つの小学校（西深井・新川・西初石・南流山・八木南）の5年生を対象に、地域の方々の指導や協力を仰ぎながら、田植え・稲刈り・収穫作業などの実際の米作りを体験する。			
事業開始から現在までの状況変化	平成22年度に市の「このまちごはんプロジェクト」の一環として、総合的な学習の時間での米づくり体験をスタートさせた。家庭の教育力低下も叫ばれる中、平成23年度から完全実施となった「小学校学習指導要領」においても「食育」が明記されている。「生きる力」の基本となる「食」の指導の重要性は増している。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
指標	① 農業指導	60	60	60	時間	→→	一校当たり12時間×5校
	②						
	③						
	④						
指標で表すことができない定性的な成果	社会科で学んだ米作りを実際に体験することにより、生産者の工夫や苦心、喜びなどを自らの体験として学ぶことができる。				目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）		
事務事業のコスト	平成24年度	平成25年度	平成26年度	各学校において地域の方々のお力をお借りして、水田の確保から田植え体験の指導、その後の管理、収穫作業の指導、そして最終的に白米になるまでのご指導など、多くの面でご協力をいただいている。地域の中の子どもたちとして指導をいただくことで、子どもたちも地域への愛着を感じる良い機会となっている。			
事務事業の総コスト(a=b+c)	144,769	159,764	165,251				
事業費(b)(円)	144,769	159,764	165,251				
うち一般財源	144,769	159,764	165,251				
職員給与費(c)(円)							
人役・職員(人)							
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H26)の改善計画	市内5小学校で「米づくり体験」を実施する。	③取り組みの課題	放射能の影響や地域の開発により指導していただける農家も減ってきている。
②今年度(H26)に実施した取り組み	市内5小学校で、地域の方々の指導や協力を得ながらの「米づくり体験」を支援したが、放射能の影響により十分な体験活動ができなかった。	④今後の改善計画	指導ができる農家が減ってきているため、実施方法を工夫しながら継続して実施していく。